

授業科目名： 現代経済学の理論と方法		担当教員名： 藤井誠二・李佳	
選択/必修： 選択	単位数： 2	セメスター： 1 前	開講言語： 日本語
<p>○授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本授業科目では、経済学の基本的な分析道具を身に着け、現実の経済問題を解析・理解できるようになることを目標とする。前半はミクロ経済学、後半はマクロ経済学に焦点をあてる。</p>			
<p>○授業の概要</p> <p>本授業科目では、経済学の理論的フレームワークを学習することを目標とする。前半はミクロ経済学、後半はマクロ経済学に焦点をあてる。前半のミクロ経済学では、需要と供給、価格弾力性、余剰分析、効用、消費者行動、生産者行動といった事柄を学習する。後半のマクロ経済学では、IS-LM モデルに代表される短期モデル、ソロー・モデルや AK モデルに代表される長期モデルを中心に学習する。授業の進行状況により内容を調整する場合がある。</p> <p>○授業の方法</p> <p>1) 日本語で行われる。</p> <p>2) 受講生は、テキストを読み、また授業での質疑応答に積極的に参加することを求められる。</p> <p>3) 授業は、毎回、簡単なレジュメ・パワーポイント等の資料が示され、それに基づいて、当日のテーマについての講義が行われる。それと共に、授業の進行状況に応じて随時、質疑応答やディスカッションを実施する。</p>			
<p>○授業計画</p> <p>第1回 イン트로ダクション、需要と供給</p> <p>第2回 価格弾力性</p> <p>第3回 消費者行動の理論</p> <p>第4回 消費者行動の理論</p> <p>第5回 消費者行動の理論</p> <p>第6回 生産者行動の理論</p> <p>第7回 生産者行動の理論</p> <p>第8回 マクロ経済学のための基礎知識</p> <p>第9回 IS 曲線（財市場の均衡）</p> <p>第10回 LM 曲線（貨幣市場の均衡）</p>			

第 11 回 IS-LM モデル（財市場と貨幣市場の同時均衡、財政金融政策の分析）

第 12 回 開放経済（マンデル＝フレミングモデル）

第 13 回 経済成長の概観とソロー・モデル

第 14 回 内生的成長モデル

第 15 回 まとめ

第 16 回 期末試験

○テキスト（予定）

奥野正寛 『ミクロ経済学』 東京大学出版会 2008 年

齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久 『マクロ経済学 新版』 有斐閣 2016 年

○参考書・参考資料等

随時紹介する

○学生に対する評価

1) クラス討論への貢献: 10%

2) 期末試験（期末試験（持込不可） : 100%（ミクロ経済学 45%、マクロ経済学 45%）